

# ビジョン策定の進め方

- これまでの研究会での講演、今回のWGで出たご意見などを参考に、  
「**社会変革**」につながるフレキシブル医療ITのビジョンの策定を目指します。
- 視点1：医療・ヘルスケアのパーソナル化
- 視点2：未病対応・先制医療の進展
- 視点3：医療・ヘルスケア診断/治療技術の革新
- 視点4：生活スタイルの変化（withコロナ、postコロナ）

上記4つの視点から

- 1) フレキシブルデバイスが刺さる用途は何か？
- 2) どんなブレイクスルーが必要か？

について議論を深め、研究会としてのビジョン策定を実施する予定です。

7月中旬に研究会HPのリニューアルを検討しています。WGの情報共有スペース、これまでの研究会プレゼン資料などをご覧になれる仕組みを作ります。

これまでのオンラインWG活動や、研究会講師のプレゼン資料を参考にして4つの視点のWGを立ち上げますので、是非、ご参加ください。



## 先制医療の重要性

生体情報を数値化、定量化した指標(バイオマーカー)を用いることで発症前期にかなり高い確率で疾患を診断、予測し、治療的な介入を行うこと、またそれにより発症を防止するか遅らせる

疾患の進行度合い



### 社会ニーズ

健康維持のための  
高度な健康管理、  
早期診断システム  
の開発が望まれる

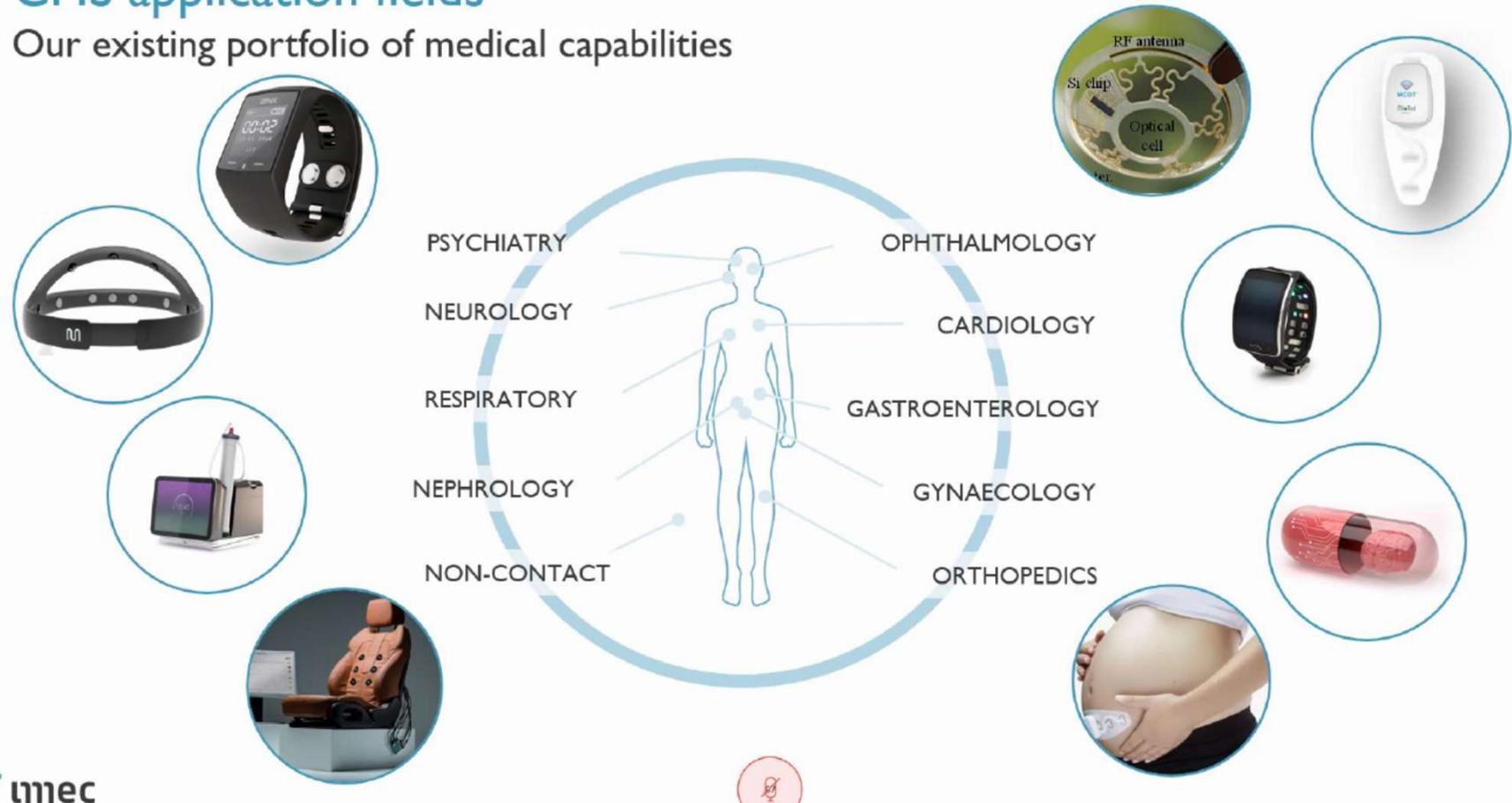
JST 戦略プロポーザル:超高齢社会における先制医療の推進  
京都大学名誉教授 井村 裕夫

第4回フレキシブル医療IT研究会講演資料から引用

# 医療・ヘルスケア診断/治療技術の革新

## CHS application fields

Our existing portfolio of medical capabilities



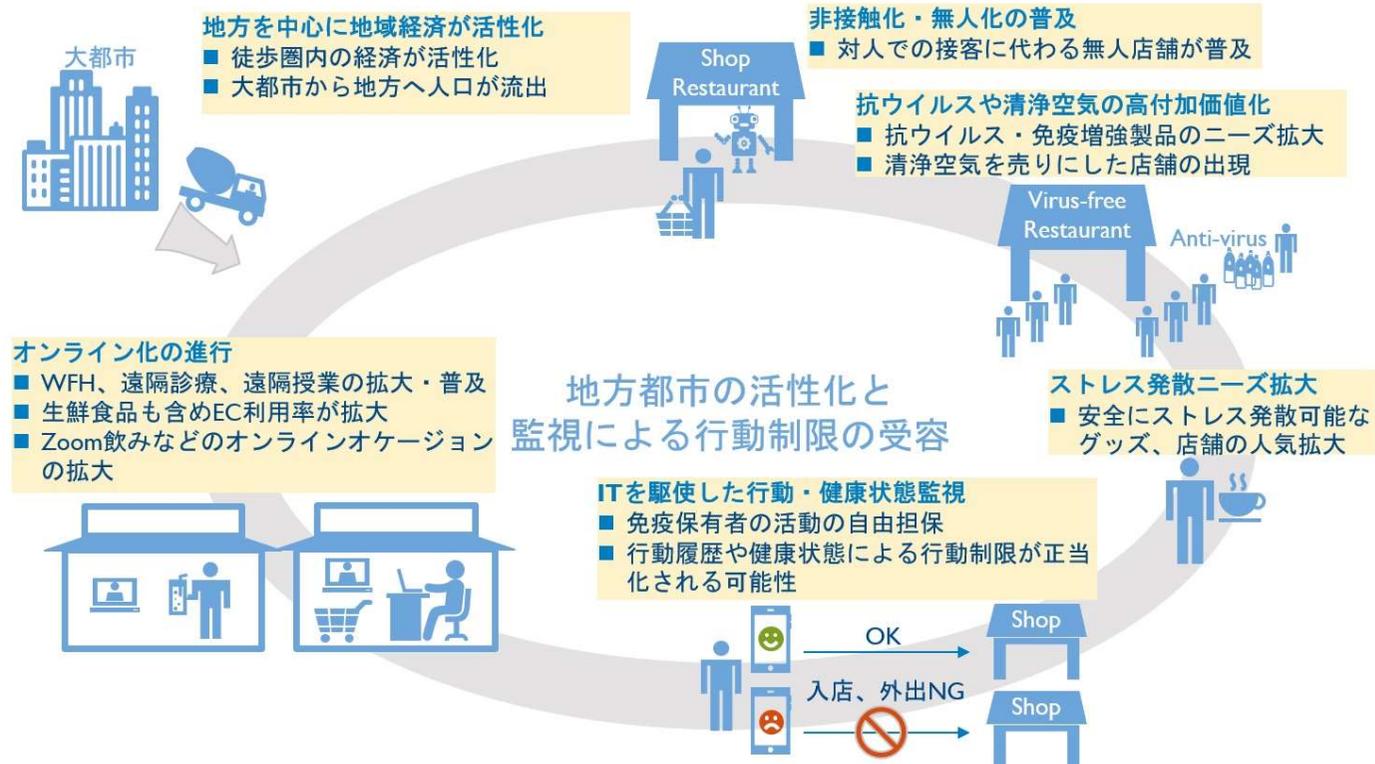
imec

IMECオンラインセミナーから引用

# 生活スタイルの変化 (withコロナ、postコロナ)

図11：Withコロナ時代の世界観：ベースシナリオ

都市から地方への移住が進み、地方都市が活性化。監視化が進行し、感染リスクが高い人に対する行動制限が受容されるようになる可能性。



出所：ADL作成

日経バイオテク資料から引用